

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

新溶解工場

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください			Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	3 外皮性能
			LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制		
小計						
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用	
自然換気の利用及び太陽光発電の設置。	4.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用	
小計	4.0	0.16				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□	4.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化		
LEDの採用に依り高効率化を計る。						
小計	4.0	0.23				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング	
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制	
小計	3.0	0.16				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
再利用が可能な工法及び資材を使用した。	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無
	3.0	0.06	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	4.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	3.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	3.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	
	3.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	4.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	3.4	0.32				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.4	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
既存建築躯体の継続使用や、耐用年数の向上等に、積極的に取り組みました。						
小計	3.4	0.14				
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.6	0.61				
■2.「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.56	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
緑化率が高く、保水性・透水性が高い。	4.0	0.28	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	2.0	0.16	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	3.7	0.98				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	5.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
現況として整備されている。						
小計	5.0	0.02				
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価	3.7	0.26				
■3.「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.47	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	1 耐震性
	3.0	0.12	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	2 免震・制振性能
			Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
庇・ルーバー等をつけて、雨・風が直接当たらない様工夫している。	3.0	0.13	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.05	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
			Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	4.0	0.13	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.1	0.70				
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
	4.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給水配管の更新性
メンテナンスを考慮して、取替の為のスペース及び露出配管を心掛けた。	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	5.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	4.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペース
小計	3.8	0.30				
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)	3.3	0.13				
重点項目の総平均(上記3項目)	3.6					